

御田

住吉大社の境内のすぐ南側にある田んぼは、3世紀に神功皇后が最初に植えたと言われている。ここで作られた米は神聖なものとされ、住吉大社に祀られている神々に捧げられる。また、住吉大社の4つの末社で行われる商売繁盛を祈願する「みのりまいり」にもこの米が使われている。

御田は、大阪の都市部の真ん中にある日本でも珍しい農耕地である。田舎であっても、牛で耕して手で植える田んぼはほとんどないが、住吉大社ではその伝統が儀式の中で守られてきた。特に毎年行われる御田植神事では、神聖な牛が田んぼの中を進み、女性たちが田んぼの水に稲の苗を植える。その後、田植えをした人や参拝者が見守る中、衣装を着た歌い手や踊り手が神々に捧げるパフォーマンスを行う。

研究者によってこの田んぼでは、塩分を含んだ土壌に生えるハマヒエガエリなどの固有の植物が発見されており、かつて神社の入り口まで大阪湾が広がっていたことを物語っている。